

森を走ろう2014 シンポジウム 2014年1月13日

森を走るスポーツ同士の連絡協議会設立に向けて検討が行われることになった。今まで統一組織の無かったトレイルランニングが組織化に向けて一歩踏み出す。



シンポジウム開催は立正大学（東京・大崎）の講義室で開催された。

## 森を走ろうシンポジウム

日本オリエンテERING協会が主催するシンポジウム「森を走ろう」が年1回のペースで開催されている。

森を走るスポーツの代表格であるオリエンテERINGをはじめ、山岳、トレイルラン、ロゲイニングなどの関係者の有志が集まり、講演や意見交換を行っている。毎回トレイルラン関係者の参加が多いのがこのシンポジウムの特徴である。

というのもトレイルランは全国組織がなく、関係者が一堂に集まる機会が殆どない。このため互いの情報交換が上手く行っていないことの表れなのかも知れない。昔に比べて情報通信が劇的に進んだ現代社会でも、人の交流が無ければ情報は流れない。「トレイルランの情報がほしい！」そう強く思った意識の高い人たちが多くシンポジウムに集った。



熱心に聴き入る参加者たち。イベント関係者、フリーライター、一般愛好家など参加者層は多彩。

## 今年の話はトレイルラン

2009年に始まったこのシンポジウムも今回で4回目となった。今まではオリエンテERINGやロゲイニングなどのことも取り上げられてきた。今回のシンポジウムはトレイルランにフォーカスされた内容となった。

トレイルランは愛好家や大会が増え、多くの人達の注目を集めてきている。山岳トレッキングも再び若い人にも人気が始めている。

多くの人が同じ山道というフィールドを違った用途で使うことが増えている中、いろいろな問題も発生している。こうした問題が新聞その他の記事になるなど一部対立と思えるような動きも出てきているのだ。



Japan Orienteering Association  
公益社団法人に寄せられる期待は、組織外からも強く感じられる。

## トレラン・組織がない弱み

オリエンテERINGは森を走るスポーツ、山を走るスポーツの先輩と言える。まだ組織化すら行われていないトレイルランに比べて、オリエンテERING協会は公益社団法人となり、日本体育協会に加盟し、JOC日本オリンピック委員会の承認団体となっている。その社会的ステータスの違いは明らかである。

同じような立場にある山岳協会と協議しあって、ニュースポーツと言えるトレイルランを同じ森を走るスポーツとして導くのは日本オリエンテERING協会だからできることもあるだろう。

いずれにしても同じ森を走るスポーツ同士、連絡を取り合う風土を作り上げることは悪くない。

こうした連絡協議会を踏み台に、トレイルラン愛好家や団体が、トレイルラ

ンの利益代表組織を作るのかどうかは判らない。愛好家や関係者の話をいろいろ聞くと今でも慎重論も強くあるようだ。しかしトレイルランが自己膨張してゆく中で、組織がないことに対する危機感も急速に高まりつつあるようだ。



シンポジウム後に行われた打ち上げ会。オリエンテERING関係者、山岳協会関係者、トレラン関係者が和やかに交流。非営利の団体の連携は個人と個人の連携に行きつく。こうした交流会を持つことがお互いの連携にとってはとても大事な。



鍋木さんと木村。  
このシンポジウム翌日に放映される山岳・トレラン関係のインターネット番組に、木村が出演する時のネタとして記念写真を撮らせていただいた。鍋木さんはトレラン界では第一人者として有名。

(日本オリエンテERING協会  
業務執行理事 木村佳司)